

## G . フォーレへ

春の哀しさは、フォーレ殿  
あなたのせいです、間違いなく

あなたの音楽はいつも語っている  
暖かな幸福は希薄なもの、と  
ぬくもりは哀しさである、と  
ふっ、と消え去ってしまうのだ、と

なんという暖かい空気でしょう、でも  
あなたはそれが涙を誘うとおっしゃる  
ああ、抱き締めることもできないのか  
浮気な天女よ、お前は私の手に  
ただ、軽すぎる哀しみの羽衣を残してゆくだけだ

ああ、お前の肌に手を触れることができたなら  
お前とともに私も、軽い天使となって  
ふわふわと天に昇ってもいい、だが  
お前は語るのだ、生命の重みを  
そして、それを背負って、自らの足で歩くことを

春の哀しみは、この羽衣のせいです  
暖かさは哀しみです、確かにきつと  
ああ、健気にもこの重さを支えきって  
いつかはお前のもとへ行くだらう  
もう伸び上がることはしない・・・

(1982.4.25)